

【1 分解説】ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)とは？

総合調査部 政策調査グループ 次長 宍戸 美佳

ヨーロッパ言語共通参照枠 (Common European Framework of Reference for Languages, 以下「CEFR」) とは、言語教育におけるシラバス (学習内容・項目)、カリキュラムガイドライン (授業計画作成の手引き)、試験、教科書等の作成や外国語能力の評価のために、透明性が高く分かりやすい共通の基盤を提供するものです。また、学習者の上達度を学習の各段階や生涯にわたって測定できるように、6段階の習熟度レベルも定義しています。(資料)

CEFR は、欧州評議会 (Council of Europe) が 2001 年に公開しました。加盟国の結束を強化し、文化面での協力を促進するという大きな目的が制定の根底にあります。英語版に続き、フランス語版やドイツ語版が公表され、現在では 40 言語以上に翻訳されています。日本語についても、CEFR をもとに文化庁が「日本語教育の参照枠」を作成しました。

日本において、CEFR はテレビやラジオの語学講座のレベル表示に活用されています。また、英語の資格・検定試験と CEFR との対照表が文部科学省から公表されています。2017 年告示の学習指導要領解説 (外国語編) でも、小学校および中学校、高等学校で一貫した目標を実現するため、CEFR を参考に学習内容および到達目標が設定されました。国内の語学教育で共通の指標が活用されることで、学習者の語学力やモチベーション向上が期待されます。

資料 CEFR が示す6段階の習熟度レベル(抜粋)

熟達した言語使用者	
C2	ほぼ全ての文章を理解することができる。様々な話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、一貫した方法で議論や説明を再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。あまり言葉を探さずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。
自立した言語使用者	
B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、具体的な話題でも抽象的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。話者同士、互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。
B1	仕事、学校、娯楽など普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処できる。
基礎段階の言語使用者	
A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関して、文やよく使われる表現が理解できる。
A1	具体的な欲求を満たすために、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを解し、用いることができる。自分や他人を紹介ことができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。

(出所)CEFR - Companion volume (2020) より第一生命経済研究所作成

関連レポート

・「【1分解説】日本語教育の参照枠とは？」(2024年8月)

<https://www.dlri.co.jp/report/ld/355957.html>